

課題情報シート

課題名：	都市に住む人々を有機的関係で結ぶ集農住宅の提案		
施設名：	新潟職業能力開発短期大学校 住居環境科		
課程名：	専門課程	訓練科名：	住居環境科
課題の区分：	総合制作実習	課題の形態：	設計・制作

課題の制作・開発目的

(1) 課題実習の前提となる科目または知識、技能・技術

建築計画、建築設計実習、住居論

(2) 課題に取り組む推奨段階

建築計画、建築設計実習（住宅程度）を習得後

(3) 課題によって養成する知識、技能・技術

課題を通して、主に建築設計、模型制作、環境問題、社会学などの応用力を身に付けます。

(4) 課題実習の時間と人数

人数：1名

時間：216時間

以前の集落社会は、そこに存在する自然に囲まれ、循環型社会を形成し自然と共生していました。その後、高度な産業や交通の発達により、人々の生活は、人類単一にとっては大変便利になりました。産業は分業化され、専門分化した社会は効率的であるものの、これを構成する一人ひとりの精神状態は、自らの関心事が狭い範囲に閉じ込められ、不健全で偏ったものにしてしまったように感じます。また情報化社会が発達し、人と人は現実での繋がりから、ネット上でのそれに変化しつつあります。近い将来、行き過ぎた効率化は人間を無機質な機械のような生物にしてしまうことも想像できます。

そこで本計画では、これらの問題の解決を図るべく、都市にあるべき新しい「集農住宅」を提案します。人類は元来、衣食住の生活を自らの手で構築してきました。生きること全体を担うことで生きる喜びを感じてきたのです。特に、本能として「食」に結び付く田園風景は、人類の原風景であり理想郷です。また生産活動を通じた結び合い、協力関係の大切さを実感することで、人々は食住を通して有機的につながっていくでしょう。都市と農村は共生生態系として渾然一体となったまちづくりが必要であると考えました。

課題の成果概要

計画は新潟市中央区川端町6丁目の信濃川沿いの敷地で行いました。設計のポイントは次のとおりです。

①自然とのつながり

日常的に「生き物」と関わり、育てることが大切です。また都市農地の保全にもつながります。よって各住戸に自家菜園を設けると共に、共同菜園や果実のなる中・低木園を設けました。

②人々のつながり

住民達の間で健全なコミュニティーが形成できるよう、各住戸の配置は、集住しながらも独立性の高い住戸とします。個を保ちつつ、共同菜園では一緒にワイワイ作業をし、協力し合う楽しさ、大切さを知ることを期待します。

③景観とのつながり

各住戸の採光に留意しつつ、都市における景観にも配慮します。建物全体は棚田をイメージし、ゆったりとした曲線で構成することで、大規模な建築物ですが親しみやすい柔らかな印象の建築物を目指しました。

集農住宅の基本計画は、曲線を描く階段状のRC造フレームに人工地盤を設置し、敷地（菜園）付き独立住宅を集合させたものです。建築概要は以下の通りです。

敷地面積:7771.5 m²

建築面積:5651.3 m²

延床面積:17134.9 m²

構造:RC造

規模:地上5階、地下1階(駐車場45台)

最高高さ:45.0m

総戸数:83戸

この建築計画を通して、集合住宅の設計手法、都市の緑化のあり方、人はいかに生きるべきかといった哲学を学ぶことが出来たことは、今後の人生、とりわけ職業人として何のために働くのか、深く多面的に考えるよい機会となったのではないかと思います。

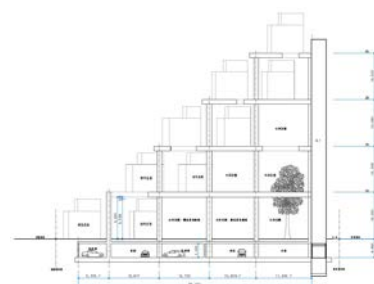


図1 計画の概要

課題制作・開発の訓練ポイントおよび所見

建築を設計する際に、何を設計するのか、という段階から思案していく必要があります。現代社会が抱える問題点の解決を探るのか、来るべき将来を想像し新しい提案をしていくのか、社会学的な見地から考察することになります。課題制作ではここが大切で、学生は自分の身近な範囲の視野から広い社会の視野へと移り、課題解決力や社会の洞察力などが養成できると考えています。

設計段階では基本的な建築設計、関係法規、建築構造、建築設備について成果がありました。特にこの課題ではランドスケープや都市緑化、建築緑化などについて造詣を深められました。

特徴的な内容や効果的な指導方法について、下表の項目にまとめます。

養成する能力 (知識、技能・技術)	課題制作・開発のポイント	訓練（指導）ポイント
○ 社会学、創造力、洞察力、自己完結力	◇ 社会情勢を調べます。今何が必要か、今後どのような社会になっていくのかを想像し、建築に何が出来るのかを探ります。	● 自ら課題を見出すよう、身近な問題から世界の社会情勢などを調べさせます。身近なところでは、地元の過疎化、食の安全、広域跡地利用など、広くは都市と農村の分離、地域コミュニティの崩壊、生活環境の悪化、高齢化社会などが挙げられました。
○ 建築計画・設計の基本知識、技術	◇ 関連法規を調べた上で、エスキスを繰り返します。建築として美しいか、合理的な構造か、住む人々が今以上に生き生きと暮らせるのか、などを追求していきます。	● この設計は、近い未来への1つの提案として世に問うことが目的であるため、あまり分譲上の採算性やLCCに縛られずに自由に創造させました。
○ コンピュータ活用技術、模型作成能力	◇ 図面は CAD により作成します。プレゼンテーションボードで利用できるよう、ファイル形式のコンバートに配慮します。プレゼンテーションボードの作成では、より魅力的にするため	● JW_CAD ファイルは、プレゼンテーションボードを作成するソフトウェア (Adobe Illustrator®) で利用できないため、文字化けや線種の誤変換などに注意が必

養成する能力 (知識、技能・技術)	課題制作・開発のポイント	訓練（指導）ポイント
<p>○ 口頭によるプレゼンテーション能力</p>	<p>にイメージ画像のストックやCGパースの作成、模型の撮影方法が大切になります。</p> <p>◇ 作品は校外のコンクールに参加することを目標とさせ、建築家への確に魅力的にプレゼンテーションするための練習を繰り返します。</p>	<p>要です。</p> <p>模型の写真撮影では、計画敷地の写真と合成しやすいEPを探って撮影することや、ダイナミックな陰影となるようなライティングの配慮も必要です。</p> <p>模型の作成では「神は細部に宿る」ことを指導し、細部の積み重ねが全体の仕上がりを左右することを実感させます。</p> <p>● 実社会では、顧客が OK しない限り建築できないことを伝えます。軽視されがちな口頭によるプレゼンテーションですが、作品と共に設計者の人柄が伝わるだけに、日頃から立ち振る舞いや言葉遣いにも心がけていくことを指導します。</p>

<所見>

長期間の計画・設計作業は、進捗管理と学生のモチベーション維持が難しいと毎年感じています。そのようなことから、目標としてJIA卒業設計コンクール新潟県大会に出展することを掲げて取り組んでいます。

課題に関する問い合わせ先

施設名 : 北陸職業能力開発大学校附属 新潟職業能力開発短期大学校
 住所 : 〒957-0017
 新潟県新発田市新富町 1-7-21
 電話番号 : 0254-22-1781 (代表)
 施設 Web アドレス : <http://www.ehdo.go.jp/niigata/npc/npcindex.html>